

種名称 (学名)		ミゾソバ Persicaria tbunbergii								
カテゴリー		分類：被子植物双子離弁花類タデ科 別名：ウシノヒタイ、カナモングサ、ウシブタイほか 生活型：1年草、分枝型・匍匐（ほふく）型								
NO.	本種写真	生息環境写真	分布	形態	類似種	生育場所	繁殖	他の生物との関係	配慮のポイント	参考文献
12			北海道から九州の各地に生育するほか、アジア北東部にも分布する。	溝や水路に生育し、葉や花の咲いた状況がソバに似ていることから、名がついた。 根：根は単立。オオミゾソバは地下に閉鎖花をつける。 茎：茎の下部は地上を横に這って節から根を出す。茎の上部は直立し、高さ30～80cmになる。稜があり、これに沿って下向きの刺がある。 葉：葉は互生し、柄があり、楕円形で、基部はほこ形、先は鋭く尖る。長さ4～8cmで、葉の両面と柄には刺状の毛がある。葉の形からウシノヒタイの別名がある。 花：花期は7～10月。枝先に小さな花が多数集まって頭状に咲く。花の柄には腺毛があってねばつく。萼は5裂し、下部は白色、上部は紅紫色で長さ4～7mm、裂片は楕円形で先は円形である。 果実：果実は卵状楕円形の瘦果で3稜がある。色は黄褐色で平滑、長さは3～4mmである。	アキノウナギツカミはミゾソバに似るが、葉の先が尖らないこと、葉の裏の中央脈の基部を除いて刺状の毛がないこと、花期が5月～7月と早いこと、ややつる性になることなどで区別される。 タニソバは茎に刺がなく、葉は三角形で葉柄に翼があって茎を抱く。茎、葉とも柔らかく、花はミゾソバよりも小さいなどの点で区別される。やや山地性である。 なお、ミゾソバと同様に茎に下向きの刺が出て、葉の基部が矛形から矢尻形になるタデの仲間には、他にサデクサ、ヤノネグサ、ナガバノウナギツカミ、ホソバノウナギツカミなどがある。	溝や水路、湿地、水田の畦などに群れをなして生育する。特に水路の縁に多く、しばしば群生する。また、ごみの多い河原など、湿った泥質の肥沃地を好む。 肥沃な湿地ではオオイヌタデ、アメリカセンダングサとともに群落をつくる。ミゾソバの群落はミゾソバ群集にまとめられる。	繁殖は種子で行う。 花期は7～10月。結実して瘦果となる。 種子は植物体の周辺に落下するほか、風や水でも運ばれる。 春先にいっせいに発芽して繁茂し、11月頃枯死する。	○ウラナミシロチョウ、キチョウ、ツマグロシロチョウ、モンシロチョウ、イチモンジチョウ、アオタテハモドキ、メスアカムラサキ、キマダラセセリ、オオチャバネセセリ、チャバネセセリ、ツシマウラボシジミなどの蝶類の成虫が吸蜜のために訪花する。	○ミゾソバが繁茂する環境は富栄養化の進行を示唆している。水質や底質の浄化に配慮する必要がある。	川の生物図典：リバーフロント整備センター